



ニュースリリース 平成22年 5月26日

<企画展>「清原斉展」－歌人として画家として－のご案内

常陽銀行(頭取 鬼澤 邦夫)は、このたび、常陽史料館(館長 江橋 上)において、「清原斉展」－歌人として画家として－を開催いたします。

稲敷郡長戸村(現・龍ヶ崎市)出身の日本画家・清原斉(1896～1956)は、昭和29年(1954)から3年連続で日本美術院賞を受賞するなど、院展を中心に活躍し、昭和31年9月に日本美術院同人に推挙されましたが、その直後、病のために死去してしまいます。

清原は日本美術院同人としてその作品を世間に発表する機会を持たなかったため、これまで美術関係者を除いては広く世にその業績が知られることはありませんでした。

今回下記のとおり、常陽藝文センター機関誌『常陽藝文』5月号と、藝文ギャラリーとの共同企画により、清原斉の人と業績を明らかにしてまいります。

清原は、院展において日本画の大作を発表する一方で、絵本の挿絵や童画もてがけ『童謡画集』『小鳥はうたふ』など、愛らしいこどもや動物を描いた作品を数多く残し、さらに大正12年(1923)に創刊された短歌誌「香蘭」誌上などで、歌人としても活躍しました。

本展は、「清原の生涯」「歌人としての清原」「画家としての清原」の三部構成とし、柔らかい色彩で描かれた絵本や童画、北原白秋や河井醉茗等との交流を示す資料などによって、歌人、童画家、挿絵画家として幅広い創作活動を展開した清原斉を紹介いたします。

つきましては、多くの皆さまにご来館のうえご高覧いただけますようご高配を賜りたくご案内申し上げます。

● 会 期：平成22年6月2日 ～ 平成22年8月1日

● 休 館 日：毎週月曜日

● 開館時間：10：00～17：45

● 会 場：常陽史料館 アートスポット(入場無料)

共同企画 *『常陽藝文』5月号

*藝文ギャラリー

藝文風土記「清原斉の世界」

「良寛のまなざし 清原斉小品展」

前期 6月2日(水)～7月4日(日)

後期 7月7日(水)～8月1日(日)

清原斉年譜

- 明治29年（1896）9月26日、稲敷郡長戸村（現・龍ヶ崎市塗戸町）に生まれる。
- 大正 2年（1913）茨城県立龍ヶ崎中学校、私立成田中学校を経て茨城県立土浦中学校卒業。
- 4年（1915）松本楓湖の画塾「安雅堂」に入門。
- 12年（1923）短歌誌『香蘭』に短歌や評論を発表する。
- 13年（1924）時事新報嘱託となり、新聞に漫画を掲載する。
- 14年（1925）北原白秋の旅行見送りの際に、成田中学校時代の旧師・鈴木三重吉と再会、これを機に「赤い鳥」出詠会員となる。
- 昭和 元年（1926）北原白秋、岡本一平とともに「三人社」を設立し、毎年同人展を開催する。
- 5年（1930）『いちご』で院展初入選。
- 6年（1931）『清原ひとし名作童謡画集』完成記念会開催。
- 7年（1932）童話『石ころ太郎』レコードとなる。
- 12年（1937）短歌誌『歌壇展望』を創刊する。
- 19年（1944）堅山南風の「南風塾」に入る。
- 27年（1952）『天狗舞』で奨励賞（院展）。
- 28年（1953）『宴会』で白寿賞（院展）。
- 29年（1954）『出を待つ人々』で日本美術院賞（院展）。
- 30年（1955）『宵』で日本美術院賞（院展）。
- 31年（1956）『アイヌ』で日本美術院賞（院展）。日本美術院同人に推挙される。
- 9月14日死去。

主な出品資料

- ・ 短歌誌『香蘭』清原斉追悼号（昭和32年発行）
- ・ 短歌誌『歌壇展望』創刊号（昭和12年発行）
- ・ 子供四題（童画版画）
- ・ 童画原画類
- ・ 絵本『小鳥はうたふ』
- ・ 絵本『童謡画集』
- ・ 清原斉似顔絵（中島多茂都画）
- ・ 水上漫筆（中島多茂都、片岡球子、岩橋英遠ら日本美術院の仲間との水上温泉旅行の様子を描いた絵巻）
- ・ 「三人社」同人展開催記念写真